

『令和』 人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ！



去る5月1日、「令和」の時代が始まりました。「令和」は、現存する日本最古の歌集である『万葉集』巻五の「梅花の歌三十二首并せて序」の以下の文からの引用です。

「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は背後の珮後の香を薫らす」。すでにご存知のように、新元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。「美しく心を寄せ合う」という文字から、皆さんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。例えば、「ありがとう」と感謝する心、「大丈夫ですか」と相手を気遣う心、「一緒にやりましょう」と励まし合う心などがあるでしょう。

これから、「令和」の時代を生きていくにあたり、時には立ち止まり、新元号の意味を思い起こしたいものです。そして、希望を胸に行動に移していきましょう。物事は、願うだけでは成就しません。自分一人の力では成し得ないことでも、多くの人が未来に向かって行動を共にするとき、何かが変わることでしょう。



『海の日』 海の恩恵に感謝し海洋国日本の繁栄を願う！



来週月曜日(7/15)は、国民の休日『海の日』です。昭和16年に、7月20日が「海の記念日」に制定され、平成8年から、海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う国民の休日として『海の日』となりました。その後、平成15年からは、祝日法の改正によって、7月の第3月曜日が『海の日』と定められています。

海の面積は、地球表面の約70%を占めています。平均的な深さは3,800メートルで、最も深いマリアナ海溝は、約10,000メートルと観測されています。海に囲まれ、豊かな漁場を持つ日本は、豊富な海の幸に恵まれています。さらに、海水浴や釣り、サーフィンなど、様々なレジャーの場を提供してくれます。広大な海を眺めることで、気持ちが広く、伸びやかになるのも海の魅力でしょう。何よりも、海は、人間を含むすべての生き物を育む「水」の大元です。

日本は、世界中で唯一『海の日』を祝日としている国だそうです。海の働きや海がもたらす恩恵に、思いを馳せたい一日ですね。

